

## 情報学環

I	研究の水準	.....	研究 14-2
II	質の向上度	.....	研究 14-4

## I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における科学研究費助成事業の採択状況は、平均64.3件（約2億2,100万円）となっている。また、受託研究の受入状況は平均17.3件（約3億3,700万円）となっており、共同研究の受入状況は平均57.0件（約2億1,800万円）となっている。
- 国際的な研究交流の推進を図っており、全学、他部局との合同、部局による国際交流協定を第2期中期目標期間に8機関と締結しており、この国際交流協定に基づき、ソウル国立大学（韓国）との共同シンポジウムを第2期中期目標期間に毎年度1回開催している。また、現代韓国研究センターでは、国際シンポジウム等の国際交流イベントを平成22年度から平成26年度に計11回開催している。
- 第2期中期目標期間における教員一人当たりの学術論文数は年度平均6.5件、口頭発表数は年度平均5.7件となっている。また、年度当たりのメディア・アート表現等の芸術作品数は平均15.8件となっている。
- 第2期中期目標期間における特許出願・公開状況は、出願数は87件、公開数は76件となっている。

以上の状況等及び情報学環の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目 II 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 学術面では、特に知覚情報処理の細目において卓越した研究成果がある。また、情報学分野を中核とする理論的研究から実践的研究に至るまでの文系理系の区別を越えた学際研究による成果により、国際的な情報分野の学会で受賞するなどしている。
- 卓越した研究業績として、知覚情報処理の「e-Heritage:大規模文化財の3次元デジタル化・解析・展示」の研究があり、コンピュータービジョンの分野にお

ける基礎から応用までの文理融合の研究を推進し、IEEE Significant Researcher Award 等を受賞し、紫綬褒章を受章している。

- 社会、経済、文化面では、特に計算機システム、知覚情報処理の細目において卓越した研究成果があり、ウェブ情報学・サービス情報学、教育工学、社会学、通信・ネットワーク工学で特徴的な研究成果がある。また、情報学分野における研究成果は、防災政策への貢献、情報通信技術による新しい教育手法 MOOC (Massive Open Online Course) の開拓等により社会に貢献している。
- 卓越した研究業績として、計算機システムの「組込みリアルタイムオペレーティングシステムの研究」、知覚情報処理の「e-Heritage:大規模文化財の3次元デジタル化・解析・展示」の研究がある。中でも「組込みリアルタイムオペレーティングシステムの研究」は、計算機のコンピューター・システム上の基本ソフトウェアとして活用されており、国内シェア率は約 50%となっている。また、海外でも利用が進み、80 以上国以上に利用が広がっているほか、宇宙開発にも利用され、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) の「はやぶさ」、「はやぶさ 2」、火星探査機「あかつき」及び「Astro-H」等の宇宙船の制御にも利用されている。

以上の状況等及び情報学環の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、情報学環の専任教員数は 53 名、提出された研究業績数は 9 件となっている。

学術面では、提出された研究業績 9 件 (延べ 18 件) について判定した結果、「SS」は 2 割、「S」は 6 割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績 9 件 (延べ 18 件) について判定した結果、「SS」は 4 割、「S」は 4 割となっている。

(※判定の延べ件数とは、1 件の研究業績に対して 2 名の評価者が判定した結果の件数の総和)

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 高い質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 共同研究の受入状況は、第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）の平均24件（約4,150万円）から第2期中期目標期間の平均57件（約2億1,800万円）へ増加している。
- 教員一人当たりの口頭発表数は、第1期中期目標期間の年度平均3.9件から第2期中期目標期間の年度平均5.7件へ増加している。
- 特許出願・公開状況について第1期中期目標期間と第2期中期目標期間を比較すると、出願数は40件から87件へ、公開数は33件から76件へ増加している。
- 平成26年度に理工系の研究環境を整備するため、ダイワユビキタス学術研究館を設置し、平成27年度にジャーナリズム論や映像論の実践的研究の基盤設備を備えた情報学環メディアスタジオを整備している。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 「組込みリアルタイムオペレーティングシステムの研究」は、計算機のコンピュータ・システム上の基本ソフトウェアとして活用されており、国内シェア率は約50%となっている。また、海外でも利用が進み、80か国以上に利用が広がっているほか、宇宙開発にも利用され、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の「はやぶさ」、「はやぶさ2」、火星探査機「あかつき」及び「Astro-H」等の宇宙船の制御にも利用されている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

### 2. 注目すべき質の向上

- 平成26年度に理工系の研究環境を整備するため、ダイワユビキタス学術研究館を設置し、平成27年度にジャーナリズム論や映像論の実践的研究の基盤設備を備えた情報学環メディアスタジオを整備している。
- 「組込みリアルタイムオペレーティングシステムの研究」は、計算機のコンピュータ・システム上の基本ソフトウェアとして活用されており、国内シェア率は約50%となっている。また、海外でも利用が進み、80か国以上に利用が

広がっているほか、宇宙開発にも利用され、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の「はやぶさ」、「はやぶさ2」、火星探査機「あかつき」及び「Astro-H」等の宇宙船の制御にも利用されている。

